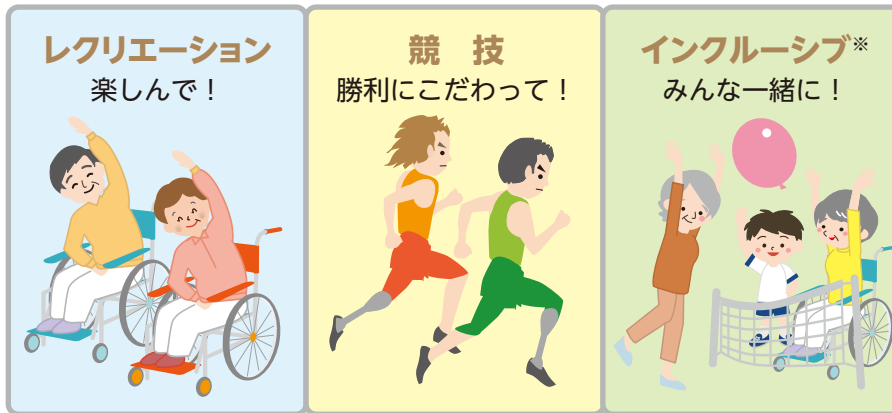
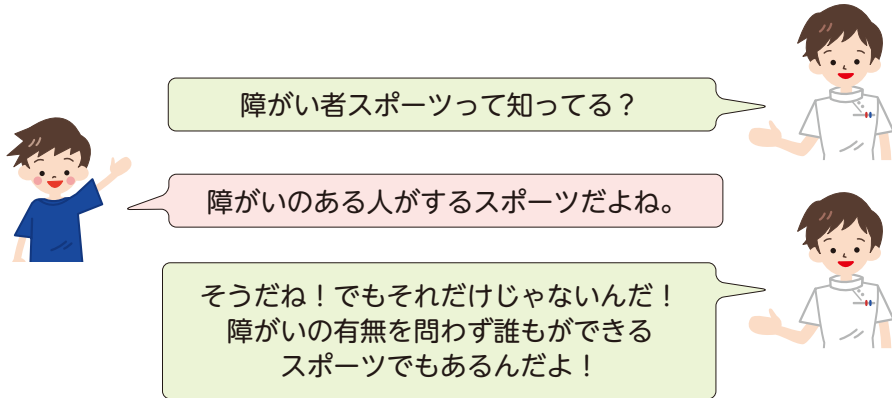


障がい者スポーツ

障がい者スポーツとは

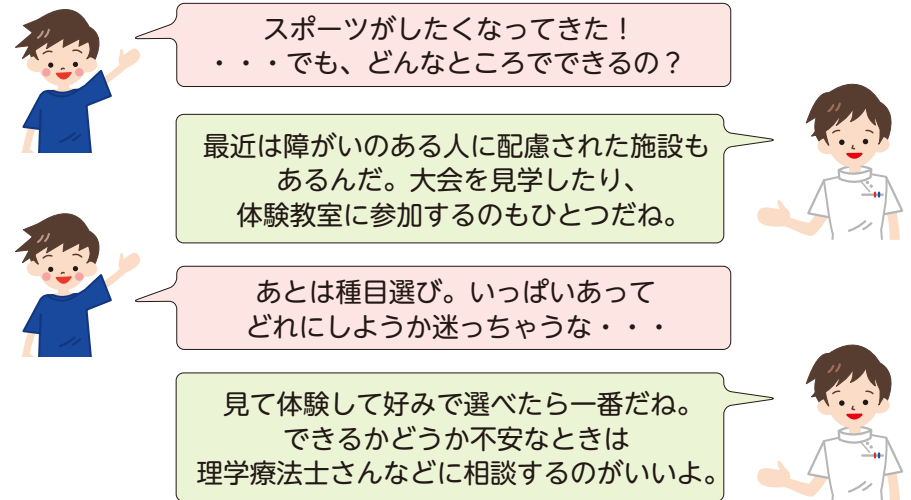


※「障がいの有無や年齢、性別に関わらず、みんなで一緒に行うスポーツ」の考え方

障がい者スポーツの一例を紹介するね！



障がいのある人もスポーツができる場所

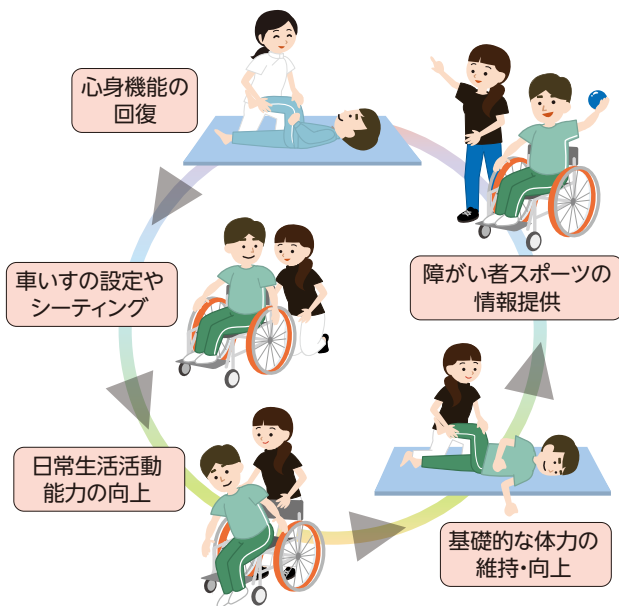


理学療法士と障がい者スポーツ

医療場面

心身機能や日常生活の向上を図る支援を行い、車いすのシーティング*や観察評価から障がい者スポーツの情報提供を行います。

*椅子・車いすを利用して生活する人を対象に、座位に関する評価と機器の選定、調整、マネジメントなどを行うことです。



活動支援

障がい者が積極的にスポーツに参加できるように、理学療法士が現場で動作指導や介助などを行い支援します。

残存機能を活かした競技支援



理学療法士による移乗の介助



アスリート支援

競技として障がい者スポーツを行う選手に対し、外傷発生の予防や競技力の向上を目指し、コンディショニングを行います。障がい者特有の問題などにも知識を活かすことができます。



理学療法士

理学療法士の強みを活かした支援ができる



クラス分け

クラス分けとは、障がいの種類や程度によって選手をグループ分けすることです。障がい者スポーツならではの工夫です。以下の3つのプロセスがあります。

●身体機能評価

筋力や柔軟性などを検査します。身体機能評価は、**医師もしくは理学療法士**が行うことができます。

●技術評価

コーチやトレーナーが、競技動作や日常生活動作などの確認を行い、適切なクラスを判断します。

●競技観察

実際の競技場面を観察し、クラス分けの結果が適切であるかを確認します。